

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 藤田 素子	提出日：平成 23 年 1 月 6 日
東南アジア研究所における職名： 特定研究員（グローバル COE） * 右記の該当する職位に○をつけて下さい。（講師・助教・助手 <input checked="" type="radio"/> ポスドク <input type="radio"/> 博士課程学生・修士課程学生・学部学生）	
派遣先の研究機関等（調査を実施した国名・機関名及びカウンターパートの研究者名）： インドネシア（リアウ大学/Ahmad Muhammad） * 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所○をつけてください。（ <input checked="" type="radio"/> 大学 <input type="radio"/> 研究機関・企業・その他）	
派遣期間：平成 22 年 11 月 7 日 ～ 平成 22 年 12 月 11 日（派遣日数：35 日）	
研究活動等の主な内容（該当する番号に○をつけてください。複数可） ①研究・実験、 <input checked="" type="radio"/> ②フィールドワーク、 <input type="radio"/> ③セミナー、 <input type="radio"/> ④インターンシップ、 <input type="radio"/> ⑤サマースクール等の講習、 <input type="radio"/> ⑥学会出席、 <input type="radio"/> ⑦単位取得等、 <input type="radio"/> ⑧その他	
研究活動の主な領域（該当する番号に1つ○をつけて下さい。） ① 文学、②社会科学、③数物系科学、④化学、⑤工学、 <input checked="" type="radio"/> ⑥生物学、 <input type="radio"/> ⑦農学、 <input type="radio"/> ⑧医歯薬学、 <input type="radio"/> ⑨総合領域、 <input type="radio"/> ⑩複合新領域	
派遣の概要（500～700 字程度） 9 月中旬から 10 月末にキナバル山で目指した手法開発をもとに、11 月初旬から 12 月初旬にかけてのインドネシア・リアウ州における調査では、リアウ大学の Ahmad Muhammad 氏の協力のもと、Giam Siak Kecil-Bukit Batu 生物圏保護区を対象地として実践型研究を行った。特に Sinarmas グループの PT. SPM 社および PT. BBHA 社の生物多様性調査班の協力をあおぎ、鳥の鳴き声録音システム（IC レコーダー、バッテリー、防水マイク、防水パックで構成）9 台を Buffer Zone（うち 4 台をアカシア植林地、2 台を保全天然林）および Core Zone（3 台を伐採後の天然林）に設置し、バッテリーとメモリーの交換をお願いし、現在も継続してモニタリング中である。キナバル山で問題のあった長期録音システムは改良し、1 日 6 時間（5：00～11：00）のタイマー録音を行うようにした。現地では、Sinarmas 社との関係構築および会社によるマネジメントの把握を最優先課題としたが、同時にリアウ大学スタッフや学生とのディスカッション、周辺村落の状況の把握、NGO とのディスカッションなどにも努めた。	
事業に係る研究成果（500～700 字程度） 今回の最大の成果は、Sinarmas のスタッフとともに生物多様性の研究を行うという目的を共有し、モニタリングを継続するための体制を構築したことにある。監督責任をもつ上司のもと、3 人が調査地に行きバッテリーの交換・メモリーカードの回収を行い、1 人が資金の管理・データの集約と管理、そしてメモリーカードのジャカルタ事務所への送付を行う。調査は 2 週間に 1 回、メモリーカードの送付は 1 か月に 1 回行う予定である。このシステムは今現在、正常に稼働しているが、時々メモリーカードの上書きや、時刻設定のミスなどが起こり、使えないデータになることも非常に多い。その原因の一つは、IC レコーダーが日本語表示であることで、マニュアルを作成しトレーニングをしたものの、間違いを完全になくすまでに至っていない。 また、コアゾーンの最奥部に到達し、ほぼ完全に人の手が入っていない天然一次林を見ることができた。システムティックな鳥類の調査をする時間はなかったが、天然林ではサイチョウの生息密度が高く、泥炭地に特化したチメドリの仲間などが多いのに対し、アカシア林では蜜を食べるタイヨウチョウや、運河の影響もありカワセミの生息密度が高い傾向がみられた。	